



## 山岸千丈氏を偲ぶ

SCE・Net 持田 典秋

E-127

発行日  
2020.7.8

山岸さんとは学生時代から知った仲だが、親しく付き合うようになったのは、彼が SCE・Net に入会してからである。SCE・Net が始まって間もなく、社会人向けの公開講座を始めることになったが、内部ではセメントのわかる講師が見つからなかった。彼がセメント会社で研究所長をしていたことを知っていたので、講師を依頼しながら入会を勧誘した。彼も何か活動の場を求めているようで、すぐに入会してくれた。

その後、幹事に推薦し、幹事会、エネルギー研究会で一緒に活動をし、出版もした。会の終わった後の飲み会ではいつも一緒に楽しんだし、何回かゴルフも付き合った。

たまたま、当時副代表幹事だった日置さんが体調を崩し、高校の後輩である彼にお鉢が回ってきた。さらに続けて代表幹事の岩村さんまで体調を崩し、彼は代表幹事代行となり、そのまま引き続いて代表幹事となった。

彼の要望で、澁谷さんと私が副代表幹事として彼を支えることになった。代表幹事時代の仕事については、山岸さん自身の原稿が「SCE・Net 設立 20 周年記念誌」に掲載されている。印象深かったのは、彼の同窓生を技術懇談会の講師に呼び、デパートの監査役とかがんの研究者から話を聞かせてくれたことである。その時はギャラリーも同窓生で溢れた。

彼は老後をのんびりと過ごしたい気持ちで SCE・Net に入ってきたのに、運命のいたずらでなってしまった代表幹事としては、活動派のメンバーから SCE・Net はアグレッシブに活動すべきだというプレッシャーを感じていたと思う。したがって並行して活動していた“くらりか”<sup>注1</sup>の代表になった時に、いろいろ理由をつけて SCE・Net の代表幹事を降りた。

“くらりか”代表としては、全国の支部を含めて年間 1 万人を超える子供たちに、理科に対する興味を呼び覚ますための活動をしており、彼はそれに心血を注いでいた。確かに多忙を極めたようで、二足のわらじは無理であっただろう。また彼は、“くらりか”が向いていたと思う。それでも昨年会った時に「やっと代表を降りたよ」と言っていたことから、活動はかなり厳しかったであろう。

山岸さんは、令和 2 年 1 月 8 日不慮の交通事故（プール帰り自転車を引いて歩いているところ、駐車場から出て来た高齢の女性が運転する自動車に巻き込まれた）に遭われ、急逝された。不運としか言いようがない。

お通夜で見た顔は穏やかで、彼の性格そのものを表していた。改めてご冥福を祈りたい。

注1：“くらりか” - 蔵前理科教室ふしぎ不思議は東京工業大学卒業生のボランティアグループで、理科好きな子を増やそうと全国各地で年間 500 を超える寺子屋式出前教室の活動をしている